

本年4月18日に、「全国学力・学習状況調査」が全国一斉に実施されました。本校の6年生の各教科の正答率については、全国や県と比べ、わずかに下回る結果でした。それぞれの教科の結果分析と今後の対策を以下のようにまとめましたのでお知らせします。

**国語科**

**【良好】**

○文章における主語と述語の関係、図における語句と語句との関係の表し方をよく理解することができています。

**【課題】**

●文章を読み取り、事実と感想、意見とを区別して、自分の考えを、条件に合わせてまとめることが苦手です。

**問題** 条件に合わせて文を書きましょう。

【高山さんの文章】

みんな仲良し「たてわりはん」

わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人とも仲良くなります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対こうで行います。上級生が下級生に応えんの仕方を教えたり、下級生も楽しめるように、アきょうぎの作戦を考えたりします。「みんなでつな引きをして楽しい」という2年生や、「下級生といっしょに応えんして熱い気持ちになる」という5年生がいます。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになるところだと思います。

「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が速くからボールをイなげるようにしています。

【高山さんの取材メモ】

「たてわり遊び」について

6年生がくふうしていること

- 遊びたいことを下級生に聞く
- ルールをくふうする
- ドッジボール 上級生は速くからボールをなげる

下級生に聞いたこと

- 1年生 お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった
- 3年生 好きな遊びや新しい友達が増えた
- 4年生 みんなが楽しそうであれしかった

**【対策】**

- ・いくつかの条件に合わせて文章を書く場面を増やしていきます。
- ・国語に限らず、様々な場面で書いた文が条件に合っているか、自分自身で確かめる習慣をつけさせたり、子ども同士で確かめ合う場を設定したりしていきます。
- ・タブレット端末の思考ツールを使って、集めた情報を視覚的に整理することや、関連性を見つけやすくまとめることを指導していきます。
- ・タブレット端末のアンケート機能を使って、グラフ化する機会を設定していきます。

**【条件】**

- 「たてわり遊び」のよさについて書く。
- 下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書く。
- 60字以上100字以内で書く。

**算数科**

**【良好】**

○2つの数量の関係を捉え、式に表すことができています。

**問題** 折り紙の枚数を求める式を、1つ選びましょう。

ア $72 + 28$	イ $72 - 28$
ウ $72 \times 28$	エ $72 \div 28$

ゆうまさんたちは、折り紙で遊んでいます。

(1) ゆうまさんは、折り紙を72枚持っています。

ゆうまさんが持っている折り紙は、こはるさんが持っている折り紙より28枚少ないです。

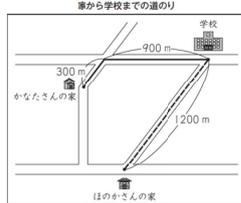
こはるさんが持っている折り紙の枚数を求める式を、下のアからエまでの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

**【課題】**

●道のりが等しい場合の速さについて、かかった時間やそれぞれの歩く速さをもとに考えたわけを、言葉や数を使って記述することが苦手です。

**問題** 図とかかった時間をもとに二人のどちらが速いかを判断し、そのわけを言葉や数を使って書きましょう。

(3) かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。

家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。

それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。

下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

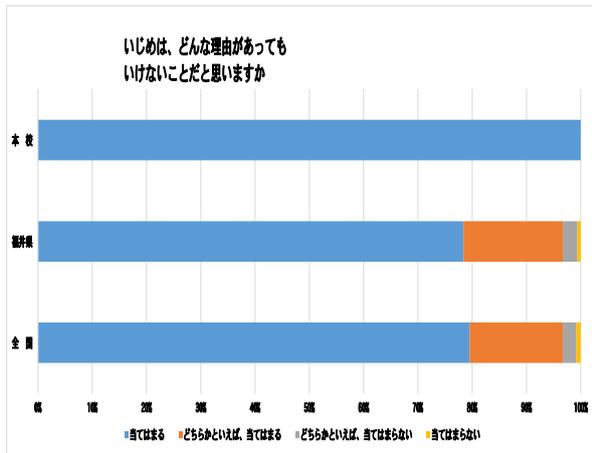
1 かなたさん

2 ほのかさん

**【対策】**

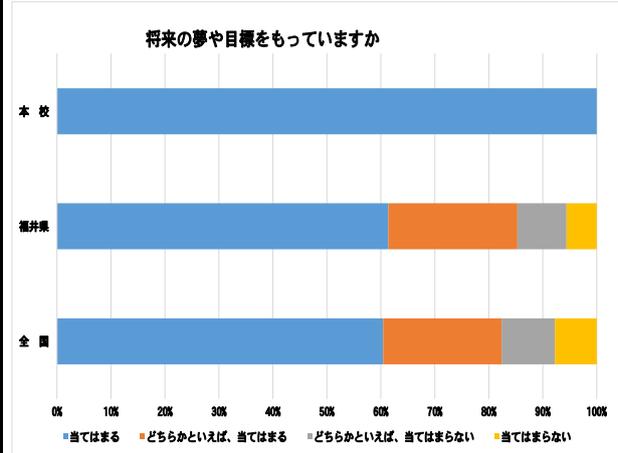
- ・考えた根拠を口頭で説明するだけでなく、数学的な言葉や数を用いて、明確に文章で書く場面も増やしていきます。
- ・道のりが同じ場合、かかった時間が短い方が速いという関係を正しく理解し、何が問われているのか適切に判断できるように、類似問題に数多く取り組むことで、技能を高め、問題への抵抗感をなくしていきます。

【良好①】



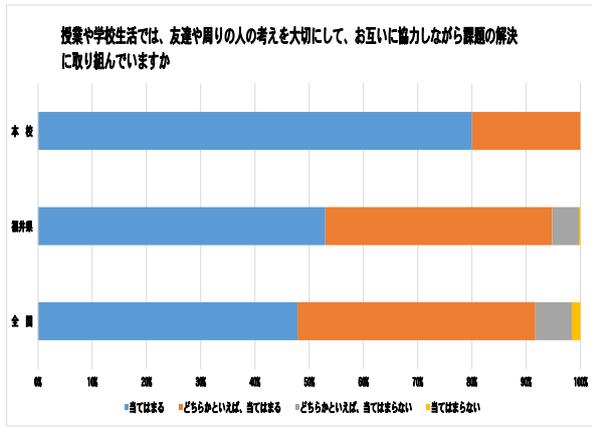
全児童が肯定的な回答をしています。本校で取り組んでいるリアクションタイムや東浦っ子タイムが、友だちの良さをお互い認め合うことにもつながり、本校児童の思いやりや豊かな心が育まれているのではないかと考えられます。誰もが笑顔で学校生活を送るために、これからもお互いを認め合い、分かりあえる環境を学校全体で創っていきます。

【良好②】



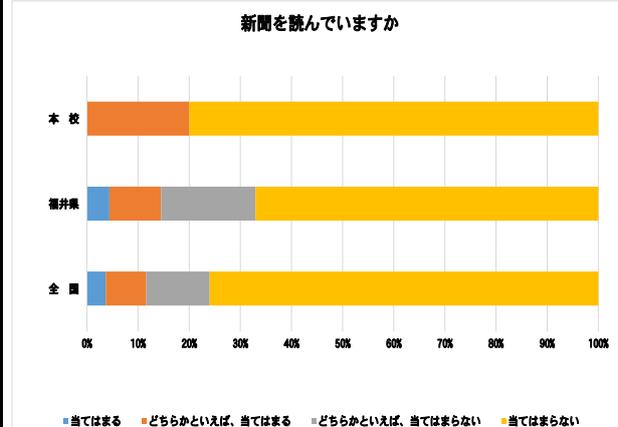
全員が「当てはまる」と答えています。本校では、東浦みかんを核としたふるさと教育や伝統芸能体験、様々なボランティア等において、保護者や地域の方々と、児童が触れ合う場が多数あります。そのような関わりが将来の自分を考えるきっかけにもなっていると考えられます。将来の夢をもつことは自立に向かう第一歩であると考えられるため、これからもキャリア教育を充実させていきます。

【良好③】



全国や県に比べて「当てはまる」と答えた割合が上回っています。小規模校の特色を生かして、遊びや行事、当番活動において、異学年との交流をさかんに行っています。このような活動では、上級生として、下級生に丁寧に教えてあげたり、手伝ったりする場面を多く見かけます。授業でも、課題を解決するために友だちと意見を交わしたり、協力したりする場面を作っています。これからも周囲と関わり合う機会を設定することで相互に力を高めあっています。

【課題】



昨年と同様、県や全国と同様に「当てはまらない」と答えた児童の割合がとても高いです。学校では、子ども新聞を購入し、委員会の児童や図書支援員を中心に、新聞を読みやすい環境づくりに努めています。また、ふくe刊を活用するなどして、授業で新聞記事に触れる機会をつくり、子どもたちの活字離れや新聞への興味の低下を改善していきます。

以上のように、質問紙調査では、少人数指導の良さが表れた結果となりました。本校の良さを生かしつつ、さらに児童が力を発揮できるよう、学校全体で取り組んでいきます。  
今後とも、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。